

2024 年 7 月 31 日

DMG 森精機株式会社

- ・連結受注額は、5 月以降前年同月比プラスに転じる。年度連結受注額予想を 5,300 億円以上(従来:5,200 億円)へ増額
- ・工程集約・自動化によるお客様価値創造は一層深化。単価上昇・粗利改善継続。補修部品・サービス部門は 2 桁成長持続

| 決算概要<br>(億円)     | FY2023.1H | FY2024.1H | (Y/Y) | FY2023 | FY2024E<br>計画<br>(4 月 26 日発表) | (Y/Y) | FY2025E<br>中期経営計画<br>最終年度 |
|------------------|-----------|-----------|-------|--------|-------------------------------|-------|---------------------------|
| 連結受注             | 2,758     | 2,667     | -3.3% | 5,200  | 5,200→5,300                   | +1.9% | -                         |
| 機械本体の受注残高        | 2,820     | 2,730     |       | 2,470  |                               |       | -                         |
| 売上収益             | 2,495     | 2,637     | +5.7% | 5,395  | 5,500                         | +2.0% | 6,000                     |
| 営業利益             | 226       | 232       | +2.8% | 554    | 585                           | +5.7% | 720                       |
| 営業利益率(%)         | 9.0%      | 8.8%      |       | 10.3%  | 10.6%                         |       | 12.0%                     |
| 継続事業からの当期利益      | 149       | 144       | -3.7% | 339    | 360                           | +6.1% | -                         |
| ロシア(UMT)連結除外損    | -0        | -151      |       |        |                               |       | -                         |
| 当期利益(親会社の所有者に帰属) | 149       | -9        | -     | 339    | 360                           | +6.1% | 480                       |
| 当期利益率            | 6.0%      | -0.4%     |       | 6.3%   | 6.5%                          |       | 8.0%                      |

※第 1 四半期(1-3 月)に、ロシア製造子会社 Ulyanovsk Machine Tools ooo (UMT) の連結除外損失 91.8 百万 EUR を計上しています。DMG MORI グループはドイツ連邦共和国政府が提供している海外直接投資保険に加入しており、保険求償を行っております。2024 年通期計画は同保険の確定を前提としています。

[2024 年度第 2 四半期累計(1-6 月)決算概要]

第 2 四半期累計の連結受注高は 2,667 億円で、前年同期比(2023 年 1-6 月期)では 3%減に留まりました。月次受注額は、5 月以降前年同月比プラスに転じ、第 2 四半期(4-6 月)の連結受注額は 1,299 億円と前年同期比 0.5%減とほぼ横ばいとなりました。医療、民間航空機、宇宙、金型業界向けの需要が堅調に推移しているのに加え、半導体製造装置、防衛関連向けの需要増が寄与しています。また、お客様の規模別で見ても、従来の大手企業から、中堅・中小企業へと広がりを示し始めたことも先行き見通しに明るさを増しています。当社の強みであるグローバルでの直販・直サービス体制下で、工程集約、自動化、DX、GX がお客様に浸透し、機械の平均受注単価が 73.4 百万円(446 千ユーロ)と前年度の 61.9 百万円(407 千ユーロ)から大きく伸長しました。補修部品・サービス部門の受注高は 626 億円(構成比: 23%)で前年同期比 12%増と順調に拡大し、連結受注高の安定化に貢献しています。6 月末の機械本体受注残高は 2,730 億円と前年度末の 2,470 億円から増加し、好調な補修部品・サービス部門と合わせて下期以降の売上収益増に寄与します。

売上収益は、2,637 億円で前年同期比 6%増、営業利益は 232 億円で同 3%増、営業利益率は 8.8%(前年同期: 9.0%)、継続事業からの当期利益は 144 億円で 4%減となりました。営業利益率は、第 1 四半期(1-3 月期)の 8.1%から、第 2 四半期(4-6 月期)には 9.5%と改善しました。お客様への価値提案による値引き率の低減、内製部品の生産効率化を中心とするコスト構造改革が貢献しています。第 1 四半期に、ロシアの製造子会社(Ulyanovsk Machine Tools ooo、以下 UMT)を連結対象から除外したことによる一過性の損失 91.8 百万ユーロを計上しました。これにより当期利益は 9 億円の赤字となりました。

フリーキャッシュフローは、利益からの現金創出は進んでいますが、ドイツ輸出許可長期化による完成機の出荷遅れから運転資本が悪化し 169 億円の赤字となりました。下期は、収益増及び在庫削減を中心とする運転資本が大幅に改善する見込みです。年度でのフリーキャッシュフローは当初の 400 億円を計画しています。6 月末の株主資本は 3,268 億円(2023 年 12 月末: 2,680 億円)へ増加し、株主資本比率は 39.5%(同: 35.0%)へ改善しました。4 月に転換社債型新株予約権付社債が全て普通株式に転換されたことで株主資本がより充実しました。純有利子負債比率は 0.20(2023 年 12 月末: 0.26)へと低下しました。

[2024 年度(2024 年 1-12 月)業績見通し]

年度の連結受注額見通しを従来の 5,200 億円から 5,300 億円以上へ増額修正しました。既に月次受注額は前年同月比プラスに転じており、下期に計画されているドイツ AMB、日本の JIMTOF などの工作機械ショーなどによりさらに受注額が増加するものと期待しています。年度業績については、第 1 四半期に増額修正した通り、売上収益 5,500 億円、営業利益 585 億円、当期利益 360 億円と計画しています。

## [2024 年度 第 2 四半期累計(1-6 月)実績]

### 受注高・機械受注残高動向

連結受注額は、第 2 四半期(4-6 月)で前年同期比での減少傾向に歯止めがかかり、今後増加基調をたどるものと認識しています。連結受注額は、第 2 四半期累計で 2,667 億円(前年同期比 3%減)、第 2 四半期 3 カ月(4-6 月期)で 1,299 億円(同 0.5%減)と、四半期ベースではほぼ横ばいとなりました。月次では 5 月以降、前年同月比プラスに転じています。引き続き、工程集約、自動化、DX、GX がお客様に浸透し、平均受注単価が 2023 年度平均の 61.9 百万円(407 キューロ)から 73.4 百万円(446 キューロ)へと大きく伸長しました。補修部品・サービス部門の受注高が 626 億円(構成比: 23%)で前年同期比 12%増と順調に拡大し、連結受注高の安定化に貢献しています。

地域別の連結受注高は、前年同期比(2023 年 1-6 月)、米州(構成比: 22%)が 15%増、欧州(同: 57%)が 4%増、と好調でした。日本(同: 10%)は 16%減、中国を除くアジア(同: 5%)は 11%減、とそれぞれ減少しました。中国(同: 6%)は 49%減となりました。第 2 四半期(4-6 月)の 3 カ月の連結受注額は、前年同期比(2023 年 4-6 月)、米州が 22%増、日本、アジアがプラスに転じて、それぞれ 1%増となりました。欧州は 2%減、中国は 40%減となりました。中国については、昨年からの輸出管理をより強化したことが大きな影響を与えました。しかし、輸出管理をより強化する中においても、民生向けに工程集約機の需要は堅調に推移しており、昨年の第 3 四半期(2023 年 7-9 月)以降は、実質横ばい圏での推移となっています。

産業別には、医療、民間航空機、宇宙、金型が好調を維持しています。第 1 四半期から引合いが増加し始めた半導体製造装置業界向けの需要が第 2 四半期から日本、アジア市場で受注に貢献し始めました。また、半導体製造装置に関連する超精密部品需要の拡大から一般機械業界にも設備投資意欲が回復し始めています。米国、欧州、日本では、防衛関連の需要増も寄与しています。製品別には、特に当社が競争力を有する 5 軸加工機、複合加工機の需要が拡大しています。5 軸加工機、複合加工機を合わせた工程集約機の構成比が 70%(前年度: 68%)と着実に伸長しています。お客様の従業員規模別構成にも変化が表れてきました。半導体製造装置関連や自動化に関する超精密部品の需要の増加から、高度な加工技術を有する中小企業の設備にも動きが見られます。これら中小規模のお客様も、労働力不足や賃金の上昇を背景に工程集約・自動化投資を検討しており、中長期的に当社の受注増に寄与するものと期待しています。

6 月末の機械本体の受注残高は 2,730 億円と 2023 年 12 月末の 2,470 億円から 11%増加しました。この受注残高は下期の機械売上をほぼカバーしております。下期に獲得する受注は、大半が来期以降の売上に寄与することになります。現在、回復増加基調にある受注は、来期以降の持続的な収益拡大につながるものと期待しています。

### 損益及び財務動向

売上収益は 2,637 億円で前年同期比 6%増、営業利益は 232 億円で同 3%増、営業利益率は 8.8%(前年同期: 9.0%)、継続事業からの当期利益は 144 億円で同 4%減となりました。円安の売上への影響額は約 260 億円となりました。営業利益は前年同期比で 6 億円増加しました。お客様への工程集約、自動化、DX、GX 提案による粗利益改善で 60 億円、内製キーコンポーネント生産性改善などで 20 億円、為替で 32 億円、併せて 112 億円のプラス要因となりました。一方、為替の影響を除く実質売上減により 62 億円、グローバル給与改定及び修理復旧部門の採用強化による人件費増で 30 億円、減価償却費などの増加で 14 億円、併せて 106 億円の負担増となりました。実質売上減の影響を粗利益の改善でほぼ吸収できたことは、戦略転換による大きな成果であったと考えています。第 1 四半期に、ロシアの製造子会社(UMT)を連結対象から除外したことによる一過性の損失 91.8 百万ユーロ(151 億円: 第 2 四半期累積平均レート 1 ユーロ=164.6 円)を計上しました。DMG MORI グループはドイツ連邦共和国政府が提供している海外直接投資保険に加入しており、それに基づいて保険求償を行っています。

バランスシート総額は 8,279 億円(2023 年 12 月末: 7,658 億円)へ 621 億円増加しました。為替の影響額は約 520 億円となり、その影響額を除く実質増加額は約 100 億円でした。資産側で実質的に変動のあった主要な科目は、有形固定資産(+97 億円)、棚卸資産(+49 億円)、営業債権(+34 億円)です。負債・資本側で実質的に変動のあった主要な科目は、株主資本(+258 億円)、仕入債務(-99 億円)、契約負債(-62 億円)です。短期金融資産の圧縮も含め、有利子負債を 171 億円削減しました。株主資本

比率は 39.5%(2023 年 12 月末: 35.0%)へ改善し、ハイブリッド資本を除く純有利子負債残高は 647 億円(同: 687 億円)へ減少しました。株主資本に対する純有利子負債比率は 0.20(同: 0.26)へさらに低下しました。

## [2024 年度 (1-12 月)業績見通し]

2024 年度の連結受注見通しを従来の 5,200 億円から 5,300 億円以上へ増額修正しました。半導体製造装置及び自動化関連の精密関連部品向けの需要が増加に転じ、工作機械需要の増加に貢献する見込みです。従来の大手・中堅企業からの堅調な需要に加えて、中小企業からの需要が増加し始めたこともプラス要因です。超精密部品の加工には、One-Chucking で加工することでより高い精度を実現することが可能となります。工程集約とあわせて当社主力の 5 軸加工機及び複合加工機の需要増につながるものと期待しています。年度業績については、第 1 四半期に増額修正した、売上収益 5,500 億円(前年度比: 2%増)、営業利益 585 億円(同: 6%増)、当期利益 360 億円(同: 6%増)を計画しています。営業利益率は、受注及び受注残の粗利益率の改善と安定収益の補修部品・サービス部門の伸長により 10.6%(前年度: 10.3%)へ改善する見込みです。6 月末で 2,730 億円と豊富な受注残を抱えており、2 桁で安定成長している補修部品・サービス部門の貢献とあわせて年度業績の達成確度はより高まっているものと考えています。

フリーキャッシュフローは、期初計画通り 400 億円を見込んでいます。下期は、収益の拡大と棚卸資産の削減によりフリーキャッシュフローが大きく改善する見込みです。年度の設備投資と減価償却費は、期初計画通りそれぞれ 300 億円程度を計画しています。年間配当は期初計画通り 1 株当たり 100 円を維持し、配当支出額は 135 億円程度となります。フリーキャッシュフローから配当支出額を控除した残額は有利子負債の返済原資とします。有利子負債の削減により、財務体質を一層強化し、2024 年末の株主資本比率を 45%程度、株主資本に対する純有利子負債比率 0.1 以下を計画しています。株主資本当期利益率(ROE)は 10%強を見込んでいます。

## [中期経営計画最終年度 2025 年 12 月期業績見通し]

工作機械受注が増加基調に転じたことで、「中期経営計画 2025」の業績目標及び財務目標の達成に自信を深めています。売上収益 6,000 億円、営業利益 720 億円、当期利益 480 億円の達成を目指しています。営業利益率は 12%、当期利益率は 8%へと当初計画通りに改善する見込みです。工程集約+自動化+DX によるお客様のマシニングの生産性改善の認知は予想以上に高まっており、当社の機械受注に占める自動化比率は着実に向上しています。それに伴い、受注単価の上昇、値引き率低減による粗利益の改善も継続しています。事業の拡大、収益率の改善に伴い現金創出能力も向上しており、有利子負債の削減により財務体質の強化も計画通りに進めます。財務面では、ハイブリッド資本を含む純有利子負債残高で 800 億円程度、株主資本比率 50% 超の達成を目指します。当該業績・財務構造により、ROE は 12%以上を確保できる見込みです。

## [DMG MORI の取り組み]

### ・お客様価値を訴求するマーケティング戦略

DMG MORI では、まず複数の生産工程を 1 台に集約した上で、その 1 台に自動化ソリューションを搭載して機械の稼働率を高めること、すなわち工程集約が、エネルギーや経営資源の有効活用に繋がり、GX(グリーン・トランスフォーメーション)に資すると考えています。この一連の流れを DX(デジタル・トランスフォーメーション)によって加速することを MX(マシニング・トランスフォーメーション)と提唱し、全世界でのマーケティング活動を通じてお客様に訴求しています。

5 月に米国・シカゴで開催した自社展示会 CHICAGO INNOVATION DAYS 2024 をさらに発展させた企画として、9 月には CHICAGO TECHNOLOGY DAYS (9 月 8 日~12 日)を予定しています。航空・宇宙、医療、ギヤ加工などの産業や技術別のテーマを 1 日ずつ設け、日本やドイツから派遣されたエンジニアが専門的な技術提案を紹介するほか、関連業界のお客様をゲストスピーカーに招いた基調講演も企画しています。また、独国・シュトゥットガルトで開催される AMB 2024 (9 月 10 日~14 日)では、NLX 2500|700 2nd Gen.をはじめとする 5 台の世界初披露機やパレット搬送を自動化する AMR (Autonomous Mobile Robot) の新たなサイズ展開である PH-AMR 750 をご紹介します。開催期間中は、会場から約 20 分の位置にある当社ヴェルナウテクノロジーセンターとの間で無料シャトルバスを運行します。改修工事を経てグレードアップされたこの自社展示場を最大限活用し、お客様と綿密に商談を進められる環境を整えます。同様に、11 月に開催される JIMTOF でも展示会場から当社東京 GHQ のソリューションセンタへお客様をご案内し、展示会会場と自社会場を組み合わせる企画によって、お客様が MX を体験できるコミュニ

ケーションを図っていきます。

## ・岡山に新 ACADEMY を開所

お客様や地域の学生に対し、基礎的な内容から 5 軸加工機での高度な加工までの幅広いトレーニングを提供する場として、5 月に DMG MORI ACADEMY 岡山を開所しました。当社は、従来東京、伊賀、名古屋の当社主要拠点でのみ提供していたスクールを、お客様のより近くで受講していただけるように研修施設の新設を進めています。岡山は、浜松、金沢、仙台に次ぐ 4 拠点目となります。2025 年以降には、九州地方での開所も予定しています。岡山には、5 軸加工機 DMU 75 monoBLOCK 2nd Generation と複合加工機 NTX 1000 2nd Generation を設置し、お客様のご要望に応じたスクールと高専生や工業高校生を対象としたインターンシップを開催していきます。当社は、これらの教育プログラムを全国のお客様や学生に提供することにより、生産技術革新を現場から推進する高度技術者の育成に貢献していきます。

## ・自動化ニーズへの対応

三重県桑名市にある株式会社 HME(エッチ・エム・イー)様は、半導体製造装置部品の研磨加工で高いシェアをお持ちの SME (Small and Medium-sized Enterprise) です。研磨加工と切削加工を組み合わせるワンストップの製品納入を実現すべく、当社の工作機械を多数導入されています。新たに建設された多度工場第二棟では、当社の NLX 2000|500 3 台をガントリーローダ GX05 で接続した自動化ラインを 5 セット整備して休日・夜間の無人加工を進めることで、今まで 17 人必要だった工程を 1 人で担当しつつ、月産 1 万個の半導体製造装置の部品を生産される計画です。

ガントリーローダのほか、パレットハンドリングを行う PH(Pallet Handling)や LPP(Linear Pallet Pool)シリーズ、ワークハンドリングを行う WH(Workpiece Handling)や Robo2Go シリーズなども、近年特に需要の増加している自動化システムです。引き続き、工作機械の稼働を最大限高められる自動化システムをお客様に提案し、お客様の価値創造を支援していきます。

## ・5 軸・複合加工機でのギヤ加工を効率化するテクノロジーサイクル

切削加工に関しては、従来専用機の使用が必須だと考えられ複数の機械で工程分割されていたギヤ加工を、汎用機である 5 軸・複合加工機 1 台に置き換えるソリューションを提供し、事例も多数紹介しています。ターニングセンタ、マシニングセンタ、ギヤ加工用の専用機といった複数の機械をワークが渡り歩く生産プロセスの場合、それぞれの機械への取付誤差が原因で精度不良を起こす可能性が高まり、修正加工や廃棄等の無駄が生じます。また、歯車の形状に合わせた専用の工具や治具を製作する必要があったり、複雑なプログラミングの作成に何日も要したりもします。当社の提案するギヤ加工のためのテクノロジーサイクルは、DMU シリーズ、NTX シリーズ、INH シリーズなどの 5 軸・複合加工機に搭載可能で、汎用工具を用いた加工のプログラム作成を効率化します。当社は、工作機械本体の技術開発だけではなく、機械の機能を最大限活用するための周辺機器、ソフトウェア、操作性も追求していきます。

## ・予知保全サービス WALC CARE

高度に自動化されたシステムでは機械故障による稼働停止や品質不良による機会損失が大きくなるため、ダウンタイムの最小化が必須です。当社のグループ会社である株式会社 WALC は、AI (人工知能) を活用して工作機械の予知保全を行うヘルスマニタリングサービス「WALC CARE (ウォルク ケア)」を開発しました。工作機械に WALC CARE KIT を取り付けることで、センサーデータを AI が分析して主軸・送り軸・回転軸などの故障の予兆を早期発見できるようになります。例えば、ボールねじの故障は機械の突然の動作変動を引き起こし、修理の要請と診断、パーツ手配、修理完了まで機械の稼働停止を余儀なくされます。当社の設備機の事例では、WALC CARE での定期的な診断により作業者が異常に気づく 5 ヶ月以上前にボールねじのサポートベアリングの異常を検出し、早期の交換を行うことでダウンタイムを 8 日から 2 日に短縮することができました。WALC CARE は保全作業の DX を加速します。

## ・LASERTEC 30 SLM 3<sup>rd</sup> Generation 世界初披露

剛性と熱変位への対応を強化した Selective Laser Melting (SLM) 方式のアディティブ・マニファクチャリング (AM) 機の新機種 LASERTEC 30 SLM 3rd Generation を開発し、6 月に独国・ビーレフェルト工場で開催した自社展示会 Open House Bielefeld 2024 にて世界初披露しました。最大の特徴は、機械の剛性を高めるために機械のフレームに工作機械と同様の鋳物を採用して

いることです。また、切削加工で培ってきた、熱変位を最小化する技術や補正のノウハウも採用しています。レーザ光源の数は1個、2個、4個から選択可能で、複数のレーザを効率よく利用することで積層速度を高めます。

AM技術を活用すると、金型を製作する必要がなくなり、開発リードタイムを短縮して新たな設計を採用することが容易になります。当社では、従来機よりも造形精度と速度の向上したLASERTEC 30 SLM 3rd Generationを使用して、ボールねじのデフレクタ(こま)といった量産部品の内製を進めています。切削・旋削・研削などの除去加工とAMは互いを補完しあう技術であり、当社は両方の分野の研究開発活動を通じて、お客様の様々な加工ニーズに対応する新しい金属加工機の市場展開に取り組んでいます。

## ・インドでの生産拡大

DMG MORIは、2019年10月よりインド・コインバトールにあるLakshmi Machine Works Ltd.へ生産委託し、インド市場向けの立形マシニングセンタCMX 600 Viなどを現地で生産してきました。2024年7月からは、新たに横形マシニングセンタNHX 6300 iの委託生産も開始しております。インドでの年間生産台数は、今年度は約60台を計画しており、2025年には約100台まで増やす計画です。NHX 6300 iシリーズの生産により、農機、建機、鉄道部品などの中～大型部品の加工、鋳物加工ニーズの取り込みを図り、経済成長著しいインド市場でのプレゼンスの向上を図っていきます。

## [ESG/CSR への取り組み]

### ・「ネットゼロ」目標でSBT認定を取得

2024年6月には、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする「ネットゼロ」の目標認定を国際的な環境団体のSBTイニシアチブから取得しました。当社が2021年に認定取得した目標では、2019年の温室効果ガス総排出量を基準として、2030年までにScope 1およびScope 2で46.2%の排出削減、Scope 3で13.5%の排出削減を目標としていました。新たな目標では、2030年までのScope 3の排出削減を27.5%に引き上げ、2050年までにScope 1～3の合計で90%の排出削減に取り組めます。Scope 1、2においては、工場の屋根を利用した太陽光発電システムの導入やCO<sub>2</sub>フリー電力の購入などによって排出削減を実現しています。Scope 3においては、電気炉とCO<sub>2</sub>フリー電力を使用して鋳造された鋳物の調達、製品ライフサイクルの各段階でのサーキュラーエコノミーの推進、生産効率を向上させる工程集約機の拡販を通じて、サプライチェーン全体で温室効果ガスの排出削減に取り組んでいます。

中古機のリビルドやオーバーホールを行っているグループ会社のDMG 森精機CIRCULAR株式会社では、廃却機や機械加工時の切りくずも回収し、鋳物の原料として再利用すべく、DMG MORI キャステック株式会社に供給しています。2025年には、キャステックが1年間に購入する銑鉄約5,000トンのうち1,000トンを品質が担保されたりサイクル素材に切り替えることで、鋳物の原料の生産時に発生するCO<sub>2</sub>を年間約1,800トン削減できる計画です。

### ・第19回(2024年)切削加工ドリームコンテスト

2024年5月20日から7月31日まで、切削加工ドリームコンテストへの応募作品を募集しました。これは当社が2004年から開催しているコンテストで、今年で19回目を迎えます。募集及び審査は、産業部品加工部門、試作・テスト加工部門、芸術造形加工部門、先端加工部門、アカデミック部門の5部門に分かれて行われ、入賞した作品とお客様名は新聞や雑誌に掲載されるため、お客様にとっても大きな宣伝効果を持つものです。このコンテストの開催を通じて、当社は加工業界全体の技術・技能の交流と向上に貢献していきます。

（免責事項）

当書面には、当社の目標、計画などの将来に関する記述が含まれております。

これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいております。

今後の経営方針転換、外部要因の変化により、将来的に実際の業績と大きく異なる可能性があります。

なお、不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- 当グループが営業活動を行っている市場内における需要環境の変化
- 為替相場の変動
- 当グループが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更
- タイムリーに新商品を開発し、市場に受け入れられるようにする当社の能力
- 当グループが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
- 独禁法や輸出管理規制等関連する法規制又はその所轄当局による運用の変更

以上